

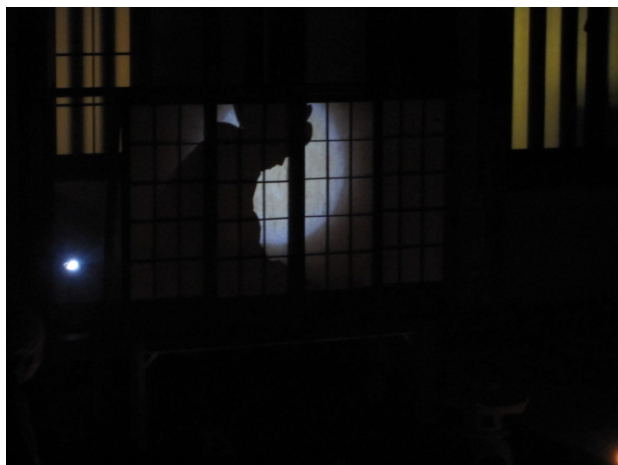
金剛院 イベントNEWS

●企画・発行/金剛院

『曾根崎心中』 ～恋の手本となりにけり～

東京ノーヴィ・レパートリーシアター

●本堂は、日頃の空間と変わって、幻想的な雰囲気息をすることもためらうくらいに緊張感が漂います。



日本人のすばらしさに驚いた外国人

ロシア人の監督が、日本を代表する近松門左衛門の作品をお寺の空間で演出する初めての試みです。

『曾根崎心中』遊女お初と徳兵衛の悲恋物語で、心中にいたる二人の運命に、日本人は300年間、涙を流してきた作品です。この名作を、ロシア功労芸術家のアニシモフが演出しました。



豊島区の後援をもらって！

今回の公演は、NPO ライフデザインが主催したもので、豊島区の後援も頂いたものです。檀家さん以外にも広報などで申し込まれた方も多くいました。昼夜2部の各80席の公演は、どちらも満席で、お初のみりしぼる心からの声と涙に感涙してしまいましたね。

★本堂の祈りの空間を劇場にしてしまうことにアニシモフは抵抗を感じていました。もちろん住職もです。しかし、どんな世界であれ、精神性を極めていけば、そこには一つの答えしかないと思っています。あなたの求める演劇は、その程度のものなのですかという住職の問いに答えた公演でした。「劇場とは違う気持ちになりました・・・」とは、多くに参加者の感想でした。(住職記)



アニシモフは・・・

本堂のエネルギーを感じました。日本の伝統芸能がもつ宗教性の根幹は、「成仏」に思想があります。お初と徳兵衛は、純粋な愛によって、障害を乗り越え、人間として精神的に完成していく。つまり「仏になれる」のです。

